



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

友愛のこれからをみつめて 意見交換会開催

鳩山由紀夫理事長 友愛の想いを熱く語る

それぞれの意見を持ち寄り更なる発展を目指す

二〇二〇年十月三十一日(土) 午前十時より友愛サロンにおいて意見交換会が開催された。
公益財団法人友愛は、二〇二三年に創立七〇周年を迎える。友愛理念の普及に更なる発展を目指すためにも、真摯に現状と向き合う事が必要であることから今回の意見交換会が開催された。理事長が招集した有識者八名から意見を聞き、今後の友愛活動の指針を模索するもので、理事長の熱い想いに始まり、参加各人がそれぞれの意見を述べ、有意義な意見交換会となった。なお、この意見交換会は、次回友愛からの派遣員経験者など、若者を交えて開催される。

今回出席の各人の意見を紙上で発表、報告とし読者諸氏のご意見を求めるところである。

出席者 鳩山由紀夫理事長 谷藤悦史教授 戸澤英典教授 田中正基教諭 井田安信さん 西川伸起さん
攪上哲夫さん 松下昌代さん 羽中田元美事務局長(発言順・掲載順)

鳩山由紀夫理事長の発言

友愛活動にそれぞれご関心を持って、ご協力いただいていることに感謝申し上げます。

今日皆様にお集まりいただいたのは、現在の友愛活動が果たしてこのままでよいのだろうか、あるいは友愛活動そのものは手段であるはずなのにそれが目的になっ

てしまっているのではないかと、マンネリ化してしまっているのではないかと、何のために私たちはこの公益財団法人を創り上げてきたのかというところが、ひ

よっとすると理事長の私を含め、曖昧になってきているのではないかと思っ

た。そこで皆様方にお集まりいただいたわけでございます。新しく菅政権が発足しました。菅さんは「自助 共助 公助」という言葉を使われ

ました。菅さんは「自助 共助 公助」という言葉を使われ

ました。菅さんは「自助 共助 公助」という言葉を使われ

た。新しく菅政権が発足しました。菅さんは「自助 共助 公助」という言葉を使われ



鳩山由紀夫理事長
是非皆さまのご意見とお知恵を
懸命に話をされた

相互扶助」という言葉で表現していますとおり、お互いを認め助け合うという社会を作ろうと、クーデン

す。その精神こそが今こそ求められていると思いま

す。ですから「自助」ばかり強調するのではなくて、また最終的には「公助」も重要でしょう。しかし、その前にお互いに助け合うという心が大切ではないかと思うのです。「自助 共助 公助」の中で友愛の役割があるとすれば、「共助」というものに重心をおいた生き様をどう作っていくのが重要だと思

います。友愛として今日まで行ってきたのは、様々な国との国際交流でした。中でも中国とは植林活動を通じて、自立と共生の友愛精神を若い人たちの中に育んでいくことではないかということ

で、植林活動が続けられる新たな道を探して再開したいと思っています。その他、友愛国際写真コンクールを中国と協力して行っています。これは写真を通じて友愛という心を互いに共有しようではないかというこ

とで、現在も続けております。そして、中国のいくつかの大学で、友愛の精神を理解していただくために「友愛講演会」を開催し、そのうえで「あなたにとって友愛とは」という

小論文を書いていただき、それについて表彰するという事業を行っています。また、ミャンマーの若者たちが、軍事政権が続いているなかで勉強の機会を奪われたという実態があり、農業国であるミャンマーの若者たちに農業についての学びを通じて友愛精神を学んでいただき、次につなげるとい

う事業を細々とではあります。また、オーストリアのOEJABとは「友愛リート歌曲コンクール」を実施していたところから若い音楽家の交流を続けてきました。リートコンクール事業を友愛として終わるときに、こ

れからは若者たちを通じてオーストリアと日本で、互いに友愛の心を育んでいくとOEJABとも話し合

い、今日まで優秀な若者の交流が続いています。このOEJABとの交流も、原点はクーデンホフ・カレルギーにあるわけで、この活動も続けていきたいと思っています。確かにこれらの活動は国際的に友愛の理念を広めていくことに、それなりに意義のある活動だと思



土曜日の午前中にも関わらず、全員が時間前に集合。各人の熱意が感じられる会議となった。時節柄、距離を保ち、部屋全体に広がる形態をとり、マイクを使っ

ての会議である。写真右から：谷藤教授・鳩山理事長・戸澤教授・田中教諭・井田さん・西川さん・攪上さん・松下さん

友愛時評

▼先日、久々にゼミの学生と食事を共にした。GOTTオイトも一度は利用してみるか、ネット予約して韓国料理店でサムギョプサルをたらふく食べ(させ)たが、ポイント還元分を差し引いたところ一人五〇〇円程度の会計で済んだ。これだけ安く上がるのなら確かに毎日でも利用したいものだと思っ

に、友愛という精神を広めるために役立っているのかと考えたとき、必ずしもそうではないと言わざるを得ません。海外との活動も、このままで良いのだろうかとも思います。

友愛活動を真摯に見つめなおしたとき、日本の若者たちや世界の人々に友愛の心を育んでいくためにはどのような事業が新たに必要か、皆様方のご意見を伺いたいと思います。

その際、ご自身が実践しておられる活動を含めて、情報をお寄せいただきたいと思っています。

友愛塾のご縁から、理事として活動してくださっている方もおられます。鳩山一郎がスタートさせた友愛という理念を掲げた団体

が、曲がり角に差し掛かっています。これからの友愛のために是非ご意見を積極的にお願いしたいと思います。

.....

谷藤悦史教授の発言

早稲田大学の谷藤です。理事長のお話をお聞きして、私も懸念していることがあります。大学の研究の他に、日本で行われている学術研究の進捗状況を評価する役を仰せつかっております。その外にも地方自治体が行っている、地方創生の進捗状況を評価することも担当しております。

そんな中で、先ほどの理事長のお話に大きく関わりがあるのですが、具体的な地方創生に関わる事業などが進んではいるのですが、そこに理念が感じられないのです。

例えば「自助 共助 公助」にしても、それを基にどのような日本を目指すのかという青写真がみえないのです。地方創生にしても、最終的にどんな日本を創るのかということが見えない。

ソサイエティ5・0の形成という言葉一つとっても、「現実とバーチャル空間の結合」といわれていますが、それは一体どんな社会なのかが見えてこない。デジタルトランスフォーメーションが社会を支えるとい

われても、デジタル化するのは手段であって、それによつて何を指すのかわからない。理念がないと感じてしまうのです。

学生にデジタルトランスフォーメーション技術を学ばせて、デジタル社会を作

谷藤悦史早稲田大学教授
友愛選考委員・評議員
理念を学ぶ友愛塾をと訴えた



かし、最終的な目的や目指す理念がなければ、それによつて、どのような社会を作るかが分からない。

私は「友愛」というような理念があれば、先ほど言った国を超えての新しい連帯を創るという理念があれば、新自由主義の潮流にある、格差拡大させない、一人勝ちの構造をつくらな

い、そして持続的に発展する社会を形成するのだということが明確になる。

私は「友愛」という理念に社会形成の前提条件を見出してきたのです。「友愛」を前提に、持続的に発展する社会を創ろうということだ

今までの友愛の活動について、否定的に考えています。国際的な交流の中で、「友愛」の理念を体现する人材の育成を継続して実施

してきたと思っています。そうした友愛活動のなかで、一つだけお願いしたい

と思うのは、理事長も先ほどおっしゃったとおり、日

本の若者をどう育てていくのか、日本の若い人々の中

に「友愛」の理念を浸透させて人材育成していくとい

うことが、少しここ数年お

ろそかになっていたのでは

ないかと感じています。友

愛塾の一期生、二期生の皆

さんは、日本における人材

形成の実証だと思っています。一期生や二期生の皆さん

のように、「友愛」の理念を備えた地域社会の政治や

経済の担い手を育てたと思

っています。

様々な講座や教室が開か

れている。友愛はそこをターゲットにして人材育成をしていかれば良いと思います。それには、友愛塾の再開が必要です。そうして育った若者たちと、オーストリアの派遣事業と結びつける、ミャンマーの農場に日本

の若者も出向いてみる。様々な友愛の事業を結び付けて人的交流が行われれば、点で実施していた事業

が面としての広がりをもつてくる。そのような総合的

連携を生み出すために、友愛塾こそが基礎だと思いま

す。それが、私の今日の意見のすべてです。

.....

戸澤英典教授の発言

東北大学の戸澤です。

クーデンホフ・カレルギ

ーの研究に関する取材を通

して友愛とかかわりをもつ

ようになり、その後評議員

を仰せつかり今に至ってい

ます。

谷藤先生のお話にもあり

ましたが、友愛塾がなくな

ってしまつたのは残念で

す。

友愛塾は、以前にやはり

政治を中心にした塾である

べきと話したことがありま

すが、今でもその方向で再

開できれば良いなあと、様々な観点から思っています。

O E J A Bとの関係も順調に継続されています。O E J A Bは、オーストリア政府の支援も受けた大きな団体で、高齢者支援、職業訓練、難民支援というよう



戸澤英典東北大学教授
友愛選考委員・評議員
若者の意見を採り入れましよう

な日本の学生も興味を持つような事業を実施しています。幸い、O E J A Bへの派遣学生については今年も多くの応募があり、安定した事業となっています。派遣学生たちのネットワーク

を取り入れて今後の活動ができれば良いと思います。友愛塾の修了生の方々のネットワークも重要だと思

います。

実際、今日のこの話し合

いにも、もつと若者が参加

して彼らの意見を聞く機会

となれば良かったという

か、友愛の今後の発展、目

指すものに近づける手段で

はないかと感じます。彼ら

が実際、何に興味をもつて

いるのか、どんな意見をも

っているのかというのは大

事です。

今現在、友愛の理念を直

接学生にぶつけても、彼ら

が興味をもつて飛び込んで

くるということは難しいだ

ろうというのが率直な感想

です。とはいえ、格差社会

が顕著になっている今、そ

れに対抗する理念を求めて

いる学生も多いと思いま

す。どのような理念を打ち立てていくべきか、彼らとともに探っていきたいと思

います。

同時に、自分たちで何かをするということにも大いに興味を持っていながら

も、学業や留学、就職活動

など様々な活動が求められ

ている中で、かつての友愛

が行っていた活動のような

ものに踏み込めない学生も

多い気がします。

そこで、研究などのプロ

ジェクトを支援するという

ことも有意義なのかなと思

っています。中国の小論文

コンテストの採点も担当さ

せていただきましたが、あ

の小論文よりはもう少し時

間をかけたレベルの高いも

のを期待して、本格的な大

学での研究と卒業論文の間

くらいの感覚で、友愛の理

念が浸透していくような論

文コンテストのような形が

探れないかと考えていま

す。



田中正基京都府立洛水高校教諭
友愛選考委員・評議員
鳩山友愛塾二期修了生

した。

それから先ほど雑談の中で聞かれたのですが、少し飛躍して例としては不向きだと思いますが、京都の隣の大阪都構想ですが、京

都では全く何も聞こえてきません。そして愛知の知事リコールの件も全く話題になりません。県をまたぐと全く情報として扱われない

というのではなく、世界とつながっている現代にお

いてもっと情報が正しく共有

できる社会ということも、

友愛としての方向性の一つ

だと思います。

友愛が世界と結びついて

お互いを尊重できる社会を

目指しているのであれば、

大いにこれからも学生を含

め、若者たちに世界と交流

して欲しいと思います。

幸い私はアジアの南の方

の国の方々に友人が多くい

ます。そうしたネットワー

クも活用して、アジアとの

結びつきができればと思

います。

今年は世界が新型コロナ

ウィルスの影響で、経済

も、人の行き来も滞ってい

ます。私の学校でも学生た

ちが、学園祭など仲間との関係を築ける行事が中止になり、先の見えない、閉塞感に包まれています。

.....

こんな今だからこそ、友

愛の理念を伝える機会だと

とらえて、友愛塾の再開も

是非実現させていただきた

いと思っています。できれば、

東京だけでなく関西でも開

催していただけたらと思

います。よろしく願いま

す。

.....

井田安信さんの発言

ミャンマーからの農業研修生受け入れ事業を担当させていただいている井田と申します。

私は、鳩山友愛塾第一期修了生です。

ミャンマーの事業に関しては、今年は残念ながらコロナ禍の影響で受け入れを断念せざるを得ないという結論に達しています。しかしながら、現在日本に住んでおられるミャンマーの方たちは本当に真剣で、ミャンマーで暮らす人々の生活を良くするため、自分たちができることは力を尽くすという意気込みで、事業に手弁当で協力してくださっています。

そういう方たちを間近に見ながら事業を進めさせていただいております。彼等の直向きな様子を見るにつけ、この農業研修生事業をもっと活発に、発展させていきたいと思っています。それには、友愛の活動そのものが広く日本で認知されることが必要です。

井田安信さん
友愛理事／ミャンマー受入事業担当
鳩山友愛塾一期修了生



そうした中で、ミャンマーの応援をしていることや、その他の事業についても知らしめて、協力してください方、寄付などを募ることに必要だと思っています。

その方向で見直すと、若い方たちの認知、協力なしには発展はないと私も強く思います。その点からも、友愛塾の再開は、大いに期待できる要素だと思っています。

加えて、若い人に受け入れられ易いテーマを探り当てる、それに関する情報共有というかたちで発信力を持つ活動ができれば良いと思います。

私は現在友愛の理事として、業務を執行する立場にありますので、できる限りのことをとっております。会員を増やすことも、発信力につながりますので、やっていきたいなと考えております。

現在担当しているミャンマーの事業を、発展させたいという思いも強くあります。ミャンマーの「友愛ファーム」を訪ねてみたいと思います。現地に行くことが必要なかということも見てくると思いますが、学生を派遣することも含めて、発展的な活動を続けていきたいと思っています。

西川伸起さんの発言

友愛塾第一期修了生の西川と申します。先ほどより話題になっていました、OEJABの事業を担当して

おります。

先生方のお話を伺いながら、思ったことがあります。私は、住んでいる地域で、児童保育の活動を一〇年ほど続けていましたが、そもそも児童保育は「共助」から始まっています。お互いに助け合って子供たちを見ようということから、自主的に始まりました。それがどんな「公助」にシフトしていったら、今ではもう行政サービスの様な感覚になって、住民の権利みたいな思われて、待機児童がいることに文句が出たりしているのが現状です。色々なところ、場面で共助の部分が弱くなってきていて、新しい公共という考え方もあるなかで課題でもあります。

私が考えるに、例えばうまくいっている家族関係をみると、ある程度の相互依存の関係があるというのが大事だと思います。お互いがお互いを必要とする状態が大事です。

ところが近年、国の内外で排他主義という自分だけの、あるいは自分たちの仲間だけ良ければとするような考えがあり、また、自助を強調するという風潮が見えます。そんな中で共助の部分、これは「自立と共生」の共生の部分でありますし、相互理解・相互尊重・相互扶助の「相互扶助」の部分でもあります。その重要性を再確認することは価値のあることではないかと思っています。

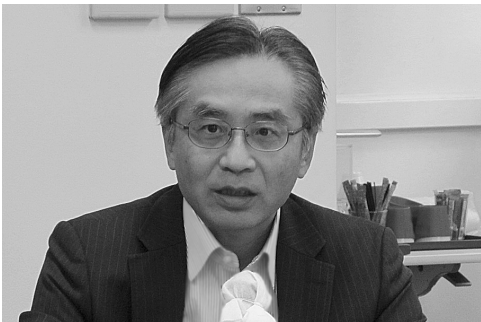
先ほどまでは、OEJABに派遣する若者たちの募集促進のためにも、例えば

大学の「難民支援サークル」やNPO法人の「カタリバ」(学生がボランティアで学習塾に行かれない子供たちに勉強を教えるような活動をしている)といったところにもアプローチして、若者を呼び込むとかもいいのではと思っていたのですが、今日皆さんのお話を伺いして、それではダメなのではと思いました。

学生が何かを提供するのは、ある意味上から目線というところで、こちらから手を差し出していく姿勢になってしまいます。OEJABに参加申し込みをしてくるような学生を見ていると、彼らは難民を実際見たいというような希望があり、頼もしいのですが、どう手助けができるかという方向で考えているようです。

四国に自殺者が少ない村があつて、そこをフィールドワークで調べた大学院生の報告本(『生き心地の良い町』)があります。それを読むと、その村の人達は、各人が自立しつつローカル

コミュニティが維持されていて、適度の距離感を維持している。田舎にありがちな、べつたりでもなく、都会にありがちな孤立した状態でもない。そうした環境が、一番自殺が少なく、皆さんのんびりと暮らしているということでした。



西川伸起さん
友愛理事／OEJAB担当・鳩山友愛塾一期修了生

コミュニティが維持されていて、適度の距離感を維持している。田舎にありがちな、べつたりでもなく、都会にありがちな孤立した状態でもない。そうした環境が、一番自殺が少なく、皆さんのんびりと暮らしているということでした。

まさに、自立、公助・共助のバランスが取れているのではないかと感じました。それでいうと、世界でもブータンが国民の幸せ感をもっとも高い国として知られています。新たな方向としてそれを友愛なりに紐解いていく。先ほど研究プログラムの案がありましたが、友愛にかかわる若者にブータンの幸福感の背景を検証してもらいたいな取り組みは、面白いのではなかったところですか。

またまらない話をしてしまいましたが、要は共助につながる、参加するほうも「相互依存」を高めていく方向の活動で人を集めていく、また、友愛という概念を若者にわかりやすく伝えるキャッチフレーズを新たに提示することも含め、できるといいなと思います。

攪上哲夫さんの発言

攪上と申します。私は、友愛塾の二期修了生です。東京福祉大学という大学で、教壇に立っております。私どもの大学の理念は、「出来なかった学生を、出来るようにして社会に送り出す」ということです。三十年ほど小中高の学校

で教員をしていました。谷藤先生、戸澤先生のように研究畑ではなく、実務家教員といったところです。教職課程で、教員を目指す学生に、教員としての実力をつけていくというようなことをしています。

そんななかで、総合的な学習の時間の指導法や、人権教育、こうした科目を受け持っている。授業を通して自分自身の立ち位置を踏まえ、「友愛」について考え、友愛の理念に近いような素材を学生たちに投げかけるようにしています。

今の文科省の教員養成の方針は、学習指導要領を忠実に指導できる教員を養成し、教壇に立ってそれを生徒たちに伝えていく、こうした「資質・能力」のある教員養成を目指しています。小学校は今年度から、中学校は来年度から、高等学校は再来年度から新しい学習指導要領が実施されますが、そういったハウツーが主体となっています。そんな中で多くの学生と出会っている訳ですが、少しづつ素材を変えて、自分のできる範囲内で友愛の理念を伝えていきたいと思っています。



攪上哲夫さん
友愛理事／小論文コンテスト担当
鳩山友愛塾二期修了生

つ素材を変えて、自分のできる範囲内で友愛の理念を伝えていきたいと思っています。自分自身を振り返った時「分けることにも、分けられることにも敏感に生きていきたい」と思っています。

四〇数年ほど前より、就学時検診の是非とか、障害のある子どもを普通学級から分けることはおかしいとか、学生時代に訴えて運動をしていました。そうしたことは、学生時代に学生同士の学びから、また教えている言葉のない子供たちから、無言のことばで学んだのではないかと思います。

友愛の理念についても、友愛塾で学んだ以外に理事長が発信されている「UIチャンネル」や著作に目を向け、一郎先生の著作『自由と人生』を読むなど、自分なりの勉強をしている程度です。

理想論になってしまいかもしれませんが、自分自身の実践を通して、友愛の理念というようなものを構築していきたいと思っています。自分のできることを、精いっぱい行い、これからもお役に立てればいいなと思っています。

松下昌代さんの発言

友愛塾一期修了生で、元朝霞市議会議員を務めておりました松下昌代と申します。現在はNPO活動をしております。

友愛塾が終了して十年が経過していますが、今日こ

ちらに来ましたら、「鳩山友愛塾」というプレートが出ていました。ちょっと感激して、とてもうれしくなりました。

私は、友愛塾に育てていただいたと思っています。私が友愛塾の門をたたいた時は、単に普通の主婦でした。政治にも何も関心のない子育てを頑張っている普通の主婦です。ただ、子供の未来がどうなっていくのかということに、一瞬不安を感じたことがあって、そこから学んでいくことで、不安を解消していくこと、思ったわけです。

申し込みに添える論文に「私は今政治にも何にも関心はありません。しかし学びたいと思う気持ちはだれよりも強いと思っています。そうした人材を拾ってこそ友愛ではないでしょうか。私が一歩踏み出すことが、後に続くものへの道しるべとなるのではないのでしょうか」と、厚かましくも、生意気なことを申し上げて入塾させていただきました。

松下昌代さん
元朝霞市議会議員
鳩山友愛塾一期修了生



そこから始まった私の第一歩は、今現在につながっています。あの時の友愛塾の学びの時間がなければ、現在の私はないと思います。

先ほど来、理念を教育する友愛塾という言葉で、友愛塾の次のステージが語られています。私のようにそこを第一歩にして進める人もあると思いますので、実現することを大いに期待しています。

そんな私自身の経験による思いの恩返しもあって、これから私のできることでお手伝いさせていただきたいと考えております。

現在私は、NPOの活動をしておりますが、具体的には子供のサポートということ。様々なことでつながりの持てない子供の居

場所をつくるということが、必要だと思っています。市議会議員のころからネグレクトの家庭であったり、夜、徘徊をしている子供がいたり、そんな状況のサポートをしてきたのですが、それらをしっかりと地域に根差した活動にしたいと思い、仲間とNPOを立ち上げました。

そんな中で改めて強く感じたのは、食の大切さです。子ども食堂を運営しているのもそんな思いからです。

それとともに、必要なのは社会的相続の補完、社会的なつながりを育むことだと思いました。社会の中で、課題を抱えている子供たちが、この社会で自立して、友愛の精神である自立と共生が実践できる子供に育っていつてくれること

が、必要で、それは大人としての責務であると思います。微力ではありますが、力を尽くします。よろしくお願い申し上げます。

この後、各人から異口同音に提案のあった「鳩山友愛塾」再会に向けて、是非にも実現したいとの理事長の発言を受け、その時期、開催の形態、テーマなどについて話し合いが続けられた。

併せて今回は友愛派遣員の若者を中心に声をかけ、意見交換会を開催することが総意として決まり、十二月中に開催されることとなった。次号に報告記事掲載。

記事に関するご意見等、事務局までお寄せください。HPからもご投稿いただけます。

友愛小論文コンテスト入賞作品 私にとって友愛とは

北京語言大学日本語学科学生の作品を紹介

第二位入賞の二作品 全作品HPにて閲覧可能

私にとって友愛とは 四年生 劉品原

「友愛」、この言葉は私たち日本語学習者にとって決して難しいものではない。しかし、試験で正しく書けるだけで身についたとは言えるだろうか。

私はこれまで、友愛の意味を真剣に考えずに、曖昧にとらえたままで人々と付き合ってきた。外国の人々、特に日本人という時は、「文化や言葉が違うか

る者、同じ利益を求める者が幸せであれば他人の気持ちはどうでもよくなるなんてことは決して友愛ではない。自分と異なるものも受け入れて、共生を求めることこそが友愛の表しだと信じている。

寮のトイレには夏になるとちっちゃい虫が集まってくる。殺虫スプレーで殺しても、少し時間が経ったらまた集まってきてしまう。生命力は驚くほど強い。実はその虫は人を刺さない。

ずっとトイレの中で飛び回るからうるさく感じるだけだ。刺されないなら殺さなくてもいいのではないかと、私は思った。それから、トイレに入るたびにた

だ手を振って、虫たちを上方に行かせるだけで、殺すことはなかった。笑われるかもしれないが、それも友愛の一種なのではないか。

それから、友愛を貫くためにもう一つ大事なことは、自分を失わないこと、つまり「自立」することだと思う。私は一年間、東京に留学に行ったことがある。その時の私は「せつかくの機会だから、日本人の友達をいっぱい作りたい」と思って、音楽サークルに入った。そこにいた人の九九％は日本人で、留学生は二、三人しかいなかった。

みんなと仲良くなるために、私は日本人の真似をしていた。飲食も服も、コミニケーションの取り方なども頑張って見習っていた。友達が「劉は日本人だと言っても全然違和感な

い」と言ってくれた時、私はそれを褒め言葉として受け入れて、うれしかった。自分の努力が認められたような感じだった。

しかし、私はどう頑張っても日本人にはなれない、文化や習慣のギャップは埋められないのだった。その残酷な事実が気付いたら、友達を作る努力は逆につらいものとなってしまった。

私は反省した。そうだ。他の誰かになることはできない、必要もないのだ。自分の立場を意識して、それを受け入れてからこそ、人と平等に付き合うことができて、その付き合いから幸せを感じられるのだ。本当の自分を受け入れることさえできなかったら、他の人を受け入れることもできないと思う。

「自立と共生」、そのどちらも友愛を貫くために不可欠なものだと思う。私にとって友愛とは、強い包容力で客観的な相違を認めて、自分も他人も人として平等に受け入れることだ。

家族といい、国といい、友愛の精神を考え理解して実践に移すことで人々が幸せになると信じている。 私にとって友愛とは 三年生 楊中奕

ハクモクレンが羽を広げた白い鳥のように咲く頃、鳩山先生に北京語言大学に来ていただき、「友愛」についてのお話を初めて伺った。

「汝の隣人を愛せよ」。「共生」は、他人への尊重と無差別な愛である一方、

私は「汝を愛せよ」という言葉を耳にしたことがなかったし、どうして自分自身への尊重と愛も必要なのか、さっぱりわからなかった。しかし鳩山先生の話を聞いて初めて、私は「個」について真剣に考え始め、それに対する理解が深まった。

自分を尊重する「自立」の愛というものは、自分の欲望を満たすためにお金や名誉にすがり、浅いところで自分を満足させる、エゴの「自己愛」ではないのだ。

本物の「自立」の愛は、「自己完成」を義務に、それを実現させるために、自分自身が最も美しい人間性をもつにつけることなのである。こうして他人への愛も「個」の確立の過程から生じ、「友愛」が結実する。 その「友愛」を持って、「お互いを愛することができると」なら諍いがなくなる」と鳩山先生は説いた。

「愛」という言葉を聞いて、ふとインドネシアの小学校でボランティアをしていた時のことを思い出した。NGOの運営を手伝う現地の大学生、Lさんは、私にあるスピーチの動画を

見せながら、「教育は愛を広げる、そして世界を変えるんだ」「子供たちに愛を教えたい」と、とにかく「Love means everything」と感情を高ぶらせて語っていた。あの時の私は、このあまりにも熱血すぎる青年のことを、ただ可笑しいほど単純な考えを持った人だと思った。

しかし、二年後の現在、鳩山先生の「友愛は毎日実践すること」という言葉を聞いて、Lさんの声がどことなく響いている気がする。我々人間は支え合いながら生きてきたのだ。ヘレン・ケラーが言った「人が互いの幸福に責任を感じるようにならないければ世界は変わらない」という言葉のように、世界中の人々は人間性を高め、お互いを思いやり、愛するものだ。

国家間も同じである。環境への配慮を怠った開発により引き起こされた環境・エネルギー問題の深刻化は、一国、または先進国だけの責任ではなく、世界は助け合っている一つの社会生命として、全人類の生存のために、気合を入れて取り組んで行くべきである。

北京語言大学の学生である私たちは「友愛」を実践するための、国境を越えることなく、心を通じ合わせることができるとある「言語力」を持っている。そのツールによって様々な人間と出会って話し合え、「自立」の上で、違う習慣、違う宗教の外国人留学生とお互いを受け入れ「共生」していく。

ノーベル平和賞を受賞した元コスタリカ大統領のオスカル・サンチェスは「平和とは終わることのない過程であり、生き方であり、紛争を解決するひとつの方法である。その努力に終わりはない」と言った。

「友愛」も同じだ。まず自分自身を愛する。そして家族を、コミュニティを、世界を愛する。その努力に終わりはない。 (二〇一九年度作品)



◆先日所用で軽井沢まで行って来ました。友愛山荘の玄関のモミジは、赤、黄、橙と色とりどりに紅葉し、正に見頃でした。数日後、中国の友人から「残照の海」の写真が送られて来ました。こちら素晴らしい色合いで、美しい空と穏やかな海が見事でした。自然の偉大さに、心癒される思いがします。パンデミック下の人間社会ですが、自然は悠然と構えています。それでも気候異変の影響か、クマの出没が問題になっています。因みに軽井沢町は、全国でも希な、クマと人の住み分けに成功し、クマの被害が一件も無い町だそうです。自然との共生―友愛理念の一つです。(も)

公益財団法人 友愛 会員登録受付中

公益財団法人友愛は、皆さまのご支援・ご理解のもとで活動を続けております。会員登録（個人・法人）をしていただき、これからの友愛の発展にご協力ください。

*申込みはHPからも *お問合せは事務局まで 電話03-5684-3188

今月号に同封のハガキをご利用ください!!

ハガキは会員以外の方に同封しております